

第64回 奈良県河川整備委員会 議事概要

1. 日 時：平成25年 3月27日(水) 15時00分～17時00分
2. 場所：春日野荘 1F 吉野
3. 出席者：委 員：8名：朝廣 佳子、岩本 廣美、岡田 伸子、立川 康人、谷 幸三、
藤次 芳枝、三野 徹、和田 萃（五十音順、敬称略）
欠席3名 伊東 眞一、中川 一、前迫 ゆり
事務局：金剛河川課長、平岡河川課主幹 ほか
4. 議事内容（主な意見）
 - (1) 前回議事概要の確認について
意見なし
 - (2) 今年度の審議のまとめ
 1. 進捗点検・再評価について
 - ・防災に関係したことで紹介する。国土交通省において、ハザードマップの見直しの検討を進めている。避難最中での被災を防ぐために、状況にもよるが、建物の中で2階に避難するという垂直避難の考えを入れたマップをつくっていく。住まいの箇所によって、危険度が事前に分かるような学習マップの作成していく。この2つを分けてマップをつくるという骨子であった。今後、新たな作成指針が示されると考えられる。
 2. 流域懇談会結果について
 - ・出席者の方は、一般の方が出席されたのか。用地に関わる方の参加はあったのか。
⇒ 沿川の自治会長、水利組合長が参加した。用地の利害関係者の出席はない。水利組合長からは、井堰の補償の話は出た。
 - ・今回の流域懇談会の位置づけ及び出席対象者を説明してほしい。
⇒ 通常の流域懇談会というのは、河川整備計画を策定する際に住民の方々の意見を聞くという形で、一般住民を対象とした住民説明会と地域の代表を対象とした流域懇談会と2つの形で開催していた。今回は試行として竜田川沿川の代表の方々として生駒市の沿川自治会長と水利組合長に出席依頼した。22名のうち6名欠席で16名の出席があった。
 - ・懇談会でもらった意見はどう反映していくのか、スキームはあるのか。次年度になると違う圏域を進めていくことになるので、反映されたかの進捗を見られない。

⇒ 意見については、地先の話が多く、土木事務所が確認し、対応できることはおこなっていく。水利組合の方へ話しが進んでいない点は、話をおこなうよう改善していく。それらをピックアップして、委員会で意見を伺い、進捗点検に生かしていく予定。

・竜田川、富雄川、三代川について議論したが、昔を振り返ると昭和 57 年に大和川の大水害があった。葛下川が大和川に合流するところで、大和川の水量が多かったため流下できずに逆流し、広範囲の洪水が起こった。それぞれが大和川に合流する地点をもう少し検討して必要があるのではないかと。

⇒ 大和川本川の水位が高くなることにより、支川から流入できないことが大和川では多い。根本的には、狭窄部である亀の瀬を開削が必要であるが、現実的に難しい。現在、大きな遊水池の計画を国では進めている。上流にため池利用した貯留、グランド貯留等の溜める対策をして、流す時間を遅らせることを進めている。内水対策は直ぐには解決しないが、溜める対策をおこないながら進めている。

・そのような箇所を現地視察する機会もあるとよい。

・竜田川の上流について、排水路のようにになっている、との説明があったが、どのような意味なのか確認したい。

⇒ 民家が接して狭い川みたいなものをイメージしている。場所によっては、管渠での対策などが考えられるが、上流では狭く、環境に配慮した工夫も難しい。

・井堰補償や改修での問題は、流域懇談会等で話すということになっていたが、そのような話し合いを実際に懇談会でおこなったのか。事業が進まなくて困っている箇所について、最終的にどのような処置をとられるのか。

⇒ 先日の流域懇談会では、水利組合の方が来られて、井堰のことについても発言があった。具体的な交渉については、住民の前では言えないことも多く、事務所の職員と話し合いながら進めている。粘り強く交渉を続けていきたい。

・インターネットで河川の水位情報は一般にも使われているが、水位計がどこにあるのかは知られていない。ある水位計の数値が上がったときに、どこの箇所の情報かなかなか伝わってこないこともあると思う。水位計の写真や位置などの情報を伝達することは有効だと考える。

3. 環境調査結果について

・外来種の中でアレチウリについて、駆除が必要ということで調査を行い、対応していただく必要がある。魚類と底生動物は過去との調査の比較可能とのこととグラフ化されているが、減っているものだけでなく、増えて困るものも示せばよいと思う。色分けも単に種類なのか、重要度なのか等、わかると良いのではないかと。

⇒ 調査範囲や調査の項目は予算の都合もあり、十分ではないと思っている。一部外来種は赤にしているが、基本的には種を色分けしている。意見を参考にしたい。

・水際のみずそばの根のところは、増水時にトンボの幼虫の隠れ場になる、メダカの産卵の場になる等、水際に植物が生えているのはよい。アレチウリの場合には、花は8月にきれいだが、種にトゲがあり痛い。小動物が来なくなる。へびなども来なくなってしまう。ツル性で他も覆うので他の植物もダメになる。全国的に広がっている。環境教育の場として、地域の人に説明する看板もあっても良い。そのようなテキストを創るときには、相談してもらったら、写真を提供する。この調査では、チョウチョやトンボなどの昆虫の調査がない。モンシロチョウの初見日等は記録している。そういうデータを用いて、地域の人や子供達と環境教育などを行えば楽しいと思う。秋篠川で植物100種類を看板立てている、それに写真を提供している。みんなで見ていくと楽しい。楽しい水辺になればいい。

・画期的な河川になると思うが、適度な洪水と法面の維持管理、草刈りによって生態系が変わってくる。河川の管理との関係があるが、自然にさわらないでおいとくということかどう考えていくべきか。

⇒ 難しい問題でもある。流域懇談会でもコンクリートにすると流れるが、殺風景となるという意見が出ていた。自然においとくと雑草で覆われてしまう。谷委員のような専門家が関わる秋篠川みたいにできればよいが、その点が課題となっている。

⇒ 佐保川では5月に一斉清掃があるが、ホタルの幼虫の時期でもある。その場合は、ロープで保護しながら実施している。生物の情報を知っていると、専門家ではないが、水際の保全ルールができてきている。そのような取組はよいと考えている。少ない費用で効果的にやろうとして、結果的に水際がのこっている。方法がもう少しまればと考えている。

・河川管理としてどう組み込んでいくかは、箇所によってことなるが、何か統一的な考えができていけばよい。組織的に考えて行けば、このような活動をどうサポートし、持続させるかにつながるのではと感じる。

・水際のネットワーク交流会という会があったが、橿原で行われ、中高校生などの発表会があった。そういう方々に、ホタルにとって大切な時期、草刈りの時期等、講習会をすればよいと考える。年1回勉強会や現場に行くなど、みんなで見方を同じようにすることが良いのではないか。

・奈良県内でアユは確認されているが、大阪側ではの柏原などで何万と産卵が確認されている。ただし、遺伝子的に魚でも移動してはいけないなどの意見があり、魚を放流したらいいということではない。それは善の悪ということになる。ビオトープの指導もしているが、トンボが来る池が希望というのに、アメリカザリガニをいれてしまう。結果、どぶ池になる。ビオトープの意味を理解してすればいい。

・夢を持てる議論があって良いと思う。関連する事項として、「私たちの大和川」という副読本を改訂中ということで、それらとのリンクもあって良いのではないか。これらの図鑑資料も入れ込んで良いのではないか。説明の中で簡易魚道というのがあるが、どういう考え方なのか。都市住民にとってプラスの財産にしていく意味でいい考えだと思う。

⇒ 簡易魚道はイメージである。魚道自体は、大和川流域では少なく、紀の川などで一部ある。堰は転倒堰にするので問題ないが、固定堰であれば、階段状のものを簡易的につくるということを手段としてイメージしている。

・私たちの大和川は、10年前に国交省で作成し関わった。現在改訂中である。副読本的な環境教育の面で小学生向き等、本にしなくてもCDで配布するなど、いろいろな方法があり、協力できると思う。(谷委員)

・環境調査については、丁寧に調査されており、次に利用することになるが、時系列的に整理してみたいという指摘も委員からあった。持続可能なやり方として、まずは定点撮影はよい方法だと思う。環境情報図、図鑑、チェック図は良いと思う。このような環境情報図について、どうやって住民は知ることができるのか。

⇒ 本日の委員会・資料は、公開になっている。ただし、環境調査について希少種の話があり、専門家で活動されている方など提供可能。一概に全部に配布するのは難しい。

・教育していくことが大切である。過去に環境教育した当時の子どもが大人になり、自分の子供をつれていこうというようになればよい。メダカが貴重種となると、場所がわかれば、業者が採捕してメダカがいなくなった。環境省では特定外来種の場合で、違反すると業者には1億円の罰金とするなど、規制をかけている。

・調査は本当は四季を通じて行うのが良い。予算の関係で厳しいなら、今回は秋調査なら次は夏調査するなどがよい。水辺の国勢調査は、5年周期で実施している。大変であるが、うまく回していくのがよい。

4. 次年度の予定について

・次年度は平城圏域に取り組むということだが、過去に公共事業評価監視委員会で議論した圏域と思うが、都市部の川ということで土地買収が難航し、実現性について意見があがったと記憶している。状況がどの程度進んだのかを分かるよう、準備頂きたい。

⇒ 準備する。

以 上